

次期 食と農業農村振興計画への考え方

食と農業農村振興計画(H20～H24)

【平成 19 年 9 月策定】

本県の高い食料供給力、先駆性に富んだ質の高い農業技術、整備された生産基盤、豊かで美しい農村環境や観光資源などの特性を活かしつつ食と農の結びつきを深めることによる、農業の21世紀にふさわしい魅力ある産業としての発展と活力ある農村づくり

1 多様な担い手が元気に活躍する農業・農村

- (1) 次代の農業を担う担い手の確保・育成
- (2) 地域農業を支える仕組みづくりと活力ある組織・経営体の育成
- (3) 女性・高齢者・団塊の世代の能力発揮ができる場づくり

2 競争力のある付加価値の高い農畜産物を生産する農業農村

- (1) 需要に的確に対応した水田農業の推進
- (2) 競争力の高い園芸産地づくり
- (3) 安全でこだわりのある畜産物づくり
- (4) 農業者の所得確保を目指した新たなマーケティング戦略の推進
- (5) 農業を支える技術開発と効率的な普及

3 消費者と「食」の絆を結び豊かな食生活を育む農業・農村

- (1) 食育と地産地消の推進
- (2) 魅力ある農業・農村ビジネスの創造
- (3) 食の安全・安心確保の推進

4 環境と調和し地域が輝く元気な農業・農村

- (1) 環境と調和し自然と共生する持続性の高い農業
- (2) 農業・農村の多面的機能の維持・発揮
- (3) 農とふれ合う都市農村交流

5 働きやすく住み良い農業・農村

- (1) 農産物の安定生産に向けた基盤づくり
- (2) 住み良い農村づくり
- (3) 災害に強い農村づくり

今後の課題と新たな方向性

1 本県農業の担い手たる農業経営者の確保・育成

- ・昭和 1 ㍉世代以降の離農が加速化し、急激な農業従事者の減少と産地規模の縮小が見込まれる
- ・品目に着目した栽培面積や生産量の拡大、品質向上対策だけでは、産地の維持が困難な状況となることが見込まれる

品目毎に長野県農業を担う農業経営者の姿を明確に示し、その確保・育成の目標に向かって施策を集中することで、長野県農業の活力と生産力を高めることが求められる。

2 農業経営者の経営力の向上

- ・農産物価格の低迷と農業生産資材の高騰により農業所得は引き続き低下傾向にある
- ・農産物流通の国際化が進展すれば、国内農産物価格の更なる低下が懸念される

農地利用の集積や法人化、自らの判断によるブランド化や6次産業化への取組、経営管理力の強化などの施策を進め、夢の持てる農業経営者を育てることが求められる。

3 農村コミュニティ機能の低下への対応

- ・農村の住民・農業者は減少しており、地縁的・血縁的つながりによる農村コミュニティ機能の低下が懸念される
- ・コミュニティ機能の低下により、農村資源の維持が困難となる可能性がある

信州の美しい農村を維持する取組を継続・強化するとともに、移住・交流による新たな人々の参加や新たなビジネスの創出により、コミュニティ機能を再構築することが求められる

次期 食と農業農村振興計画への考え方(H25～H29)

視点1：産業としての農業を行う人づくりにより、本県農業の活力と生産力を高めることが必要ではないか

視点2：人が暮らしたい農村には、長野県を特徴づける農村景観や農村資源が維持されていることが必要ではないか

視点1 夢に挑戦する農業

意欲ある若者の就農への挑戦、農業者の経営拡大への挑戦、新しい品種・品目への挑戦、6次産業化への挑戦など、農業経営者が夢を持って経営の確立に取り組める長野県

視点2 皆が暮らしたい農村

農村景観や自然環境の維持、地元で採れた新鮮な農産物の購入、農村文化の伝承や農村資源を活用したビジネスへの取組などを皆が役割を持って支える長野県

(参考：平成 24 年度主な新規事業)

信州農業 M B A 研修事業

- ・所得 1000 万円以上を目指す若手農業者に対する企業的経営管理能力を高める実践的研修の実施

おいしい信州ふ - ど(風土)プロジェクト推進事業

- ・信州農産物のブランド力と消費拡大を図るための、県民の情報共有、地産地消運動の推進、県外・海外での P R を実施

次期振興計画に対する議論のポイント

審議会におけるご意見と知事と有識者との懇談における発言等を踏まえ、次期振興計画に対する論点を事務局で整理したものです。

視点1 夢に挑戦する農業

1 長野県農業を築いていく強い経営体を育成する施策を重点的に進めるべきではないか

- ・長野県に就農したい者を確保するため、より一層の就農しやすい環境をつくる施策を進めるべきではないか
- ・品目ごとに中心となる担い手の経営体像とその支援策を明確にすべきではないか
- ・農地の集約化と活用を一層高めるための施策を進めるべきではないか
- ・他産業からの農業参入を進める施策も検討すべきではないか
- ・女性農業者や規模が小さくても経営的に頑張る農業者への施策も必要ではないか

2 消費者が求める競争力のある農畜産物を生産する施策を進めるべきではないか

- ・強い経営体等がマーケットで競争できる品目・品種の生産拡大と消費者が求める質を確保する施策を進めるべきではないか
- ・環境にやさしい農産物の生産を拡大する施策を進めるべきではないか
- ・長野県農産物が安全に生産・流通し、消費者が安心して購入できる仕組みづくりに取り組むべきではないか

3 競争力を高め、農産物の販路を拡大する施策を進めるべきではないか

- ・県独自の認証制度や食文化に根ざした信州ブランドの認知度を更に高めるため、おいしい信州ふ - ど(風土)を進めるべきではないか
- ・消費動向を的確に把握し、戦略的な生産と販売戦略による販路拡大を進めるべきではないか
- ・競争力のある農産物の輸出を拡大する施策を進めるべきではないか
- ・他産業との連携等による6次産業化により、農産物の価値や販売量を拡大する施策を進めるべきではないか

4 農業の生産構造等の提示

- (1) 1～3を進めた上で見えてくる目指すべき農業の生産構造を提示してはどうか
- ・農地の利用状況とそれを担う経営体の姿
 - ・品目ごとの栽培面積・生産量
- (2) 必要な技術開発や農業基盤整備の目標を提示してはどうか

視点2 皆が暮らしたい農村

1 暮らし続けたいと感じる美しい農村を維持する施策を進めるべきではないか

- ・多面的機能の維持や環境を保全する施策(環境直払い、中山間直払い、農地・水、鳥獣害対策等)を継続的に実施すべきではないか
- ・環境負荷を低減する再生可能エネルギーの利用や畜産たい肥等の資源循環等を進める施策を継続・拡大すべきではないか
- ・防災対策など安全性や快適性を高める施策を進めるべきではないか

2 農産物の地場消費と食への関心・理解を深める施策を進めるべきではないか

- ・旬の農産物の地場消費、県内消費を高める施策を進めるべきではないか
- ・食と農への理解を体験として深める施策を進めるべきではないか

3 農村を支えるコミュニティ機能を維持・構築する施策を進めるべきではないか

- ・集落機能を維持するため、多様な住民の参加を促す施策を進めるべきではないか
- ・農村伝統文化やコミュニティビジネスにより絆を強める施策を進めるべきではないか
- ・移住交流により、都市部住民の農村コミュニティへの参加を促す施策を進めるべきではないか

その他

- ・重点的に推進する事項は、横断的なプロジェクトにより活動を強化すべきではないか(例えば、中山間地域の活性化、6次産業化、農地のフル活用等)
- ・計画の示し方
 - ・農業者が自分の立ち位置や取組方向が見えることが必要ではないか
 - ・地域の皆で守る農村の姿が見えることが必要ではないか